最新の知見と感染対策実践事例を通じて備える地域医療

顔の見える関係を築き、実践に活かす 河内地域感染管理ネットワーク（KICN）講習会

近年、世界の感染症対策は大きく変化しています。WHO総会では「パンデミック条約」が採択され、ワクチンや医薬品の国際的な共有体制が進められています。国内に目を向けると、海外からの帰国者による麻しんや、外国人労働者を介した結核など、輸入感染症の増加が課題となっており、医療機関の枠を超えて地域全体で対策が求められる状況にあります。

本稿では、こうした状況の中、最新の知見の共有や実践的な感染対策の習得を目的として開催された「河内地域感染管理ネットワーク（KICN）講習会」の様子をお伝えします。同講習会は、地域医療における中心的役割を果たす八尾徳洲会総合病院を会場として、河内地域の医療施設、介護・福祉施設、保育施設などから感染管理を担当する約30名の方々が参加され、当社も製品展示とフルPPE着用の演習に参加しました。

会場：八尾徳洲会総合病院

■新型コロナの感染症対応から見えた課題と学び

講習会の冒頭では、八尾市保健所 保健予防課 参事　羽山実奈様より、新型コロナウイルス感染症への対応を通じて、平時からの備えや状況変化への柔軟な対応、正確な情報共有体制の重要性を改めて認識したという話がありました。

今年度も季節性インフルエンザの流行や、麻しんや結核などの感染症が増加傾向にある中で、今回の講習会では、各施設の感染対策に関する取り組み事例の共有に加え、新興感染症を想定した訓練を通じて、参加施設が互いに学び合い、地域全体の感染管理力の向上につながることが期待されると述べられました。

■感染症の最新動向の共有と各医療機関の感染症対策事例紹介

今回の講習会の前半では、麻しんや結核といった感染症発生時の具体的な事例を振り返って、課題と改善策が共有されました。

どの事例報告にも、早期対応の重要性、平時からの備え、そして施設内外の連携の必要性が共通話題として挙げられました。具体的には、感染症疑いの段階での迅速な動線分離、保健所への通報、検査体制の強化、陰圧室への誘導・処置など、あらかじめマニュアル化された感染対策を確実に実行することが、二次感染防止に直結することが示されました。

また、今回の参加者の中で、医療施設の次に参加の多かった介護施設においては、高齢者は感染症の症状が乏しく発見が遅れることが多いことから、二次感染防止と早期発見を最重点課題とすることなどが共有されました。

■継続的な教育と仕組みづくり

感染管理は医療施設の中で働く多職種の連携が重要です。事例発表では、患者教育による手指消毒の行動変容や、結核診断で必要な検査を確実に行うための職員教育など教育的工夫が成果につながる実例も多く示され、継続的な教育と仕組みづくりの重要性が強調されました。

今回の事例の中から、院内で多職種の教育と横断的な院内の仕組みづくりについて発表された事例をご紹介します。

2025年度
河内地域感染管理ネットワーク（KICN）講習会
プログラム

【テーマ】最新の知見と感染対策実践事例の共有
総合司会：八尾徳洲会総合病院　宮本 幸子様

1）八尾市保健所から最新の情報提供（結核を中心に）
2）麻疹について（概論）石切生喜病院
3）麻疹対応事例について①東大阪生協病院
4）麻疹対応事例について②若草第一病院
5）学会発表事例報告　座長：池田病院
　①地域キャリア支援の取り組み　八尾徳洲会総合病院
　②陰部清拭改善への取り組み　東大阪生協病院
　③N95マスクフィットに関する取り組み　医真会八尾総合病院
　④結核３連痰導入への取り組み　大東中央病院
　⑤患者への手指衛生教育の取り組み　八尾徳洲会総合病院
6）フルPPE着用に関するレクチャー　興研株式会社
7）新興感染症を想定した訓練～防護具の着脱を中心に～
　・パターン①タイベック（医療機関向け）
　・パターン②フルガウン（介護・保育機関向け）

【発表事例】N95マスクフィットに関する取り組み

医真会八尾総合病院

（当社で要約）

COVID-19以降、N95マスクの使用が多職種に広がり、誤った装着や複数種類のN95マスクが混在する状況が課題となった。正しい装着の定着と適切なN95マスク選定を検証するため、355名の職員を対象にN95マスクの定量的なフィットチェックを実施した。

その結果、初回合格は約半数にとどまり、主な不合格要因は“自己流”の装着方法などの基本的な装着ミスであった。装着指導後は、95.6％が合格し、形状別ではカップ型のN95マスクの方が合格率が高い結果となった。

安全性の観点から、コストのみでN95マスクを1種類に統一することは不適切であることが分かった。また、複数のN95マスクを併用することに加え、反復的な装着教育が不可欠と考えられた。

以上の結果から、年1回以上のN95マスクのフィットチェックとともに、装着者の顔や業務特性に合ったN95マスクの選択ができるようにしたうえで、装着方法を反復教育する必要がある。

また、N95マスクは価格だけでなく、フィットチェックの合格率、耐久性、快適性の総合評価で選定するなど調達基準の見直しと、ラウンドでの装着状況のチェックなども取り入れることが推奨される。

ICN から装着指導が行われ、受講者同士でチェックをしながら演習を行う様子（左）
N95 マスクのひもの調整をすることで、マスクと顔の適切なフィットが得られる（下）

■新興感染症を想定した訓練

講習会の後半では、フルPPEの着脱演習を中心とした新興感染症を想定した訓練が行われ、当社製のPPEセット「フィットクルー W6N95型」が用いられました。

初めて装着される方や久しぶりに装着される方などに対して、感染管理認定看護師（ICN）の方々より、装着や脱衣の順番、注意すべきポイントなどの指導が行われ、参加者はお互いで確認しながら、真剣に取り組まれていました。

呼吸用防護具として、N95マスクは当社製の「ハイラック350型」が使用されました。参加された方から「結核病棟に行くときに使っています」という声や、「痛くないし、肌ざわりがよくて、着けやすかった」というお声をいただきました。

「フィットクルー」については、サージカルガウンの素材が良いことや、備蓄の観点からフリーサイズで管理しやすい点が評価されました。一方で、シューズカバーの装着方法が分かりにくいというご指摘や、手袋のサイズ展開や価格のバランスについても意見が寄せられ、今後の検討課題として挙げられました。

製品紹介　PPEセット「フィットクルー W6N95型」

PPEセット「フィットクルー W6N95型」

初動対応に必要なPPEが一人分ずつセットに

在庫管理もラクラク
保管・備蓄に

- 箱に保存期限の年月を表示：5年
- 販売単位：1箱10セット入

セット品の構成・詳細　（WHO PPE規格基準 適合）

	サイズ	材質	規格
N95マスク ハイラック350型	フリー	【フィルタ部】ポリプロピレン、ポリエステル 【接顔部】ポリエチレン、レーヨン 【紐通し】ポリプロピレン、ポリアセタール 【しめひも】ウレタン、ポリエチレンテレフタラート	米国NIOSH※1（N95）合格 国家検定規格（DS2）合格
保護メガネ KE-01 Premium for Hi-Luck	フリー	【フレーム、レンズ】ポリカーボネート	日本産業規格JIS T8147（2016）適合 米国製品安全規格　ANSI Z87.1適合 欧州製品安全規格　CE EN166適合
ガウン	フリー	ポリプロピレン、ポリエチレン	米国AAMI※2液体防御性能基準 レベル2適合
手袋	Mサイズ	ニトリルゴム	–
キャップ	フリー	ポリプロピレン、天然ゴム	–
シューカバー	フリー	ポリプロピレン、天然ゴム	–

※1　NIOSH：National Institute for Occupational Safety & Health（米国労働安全衛生研究所）
※2　AAMI：Association for the Advancement of Medical Instrumentation（米国医療機器振興協会）

PPE装着訓練用に活用いただける
フィットクルーの
＼「装着ガイド」「動画」のご案内／

装着ガイド

装着動画

装着動画は
こちらから！

顔の見える関係が地域を守る

河内地域感染管理ネットワーク（KICN）の学び合いと支え合いの力

KICNに参加されたきっかけや、活動の中で心がけていることについて教えていただきました。

KICN会長　医療法人　石切生喜病院　感染制御部師長
感染管理認定看護師　天辰順子様（右）
児童発達支援第二センター　八尾しょうとく園
看護師　末永久美様（左）

KICN会長　天辰様　八尾徳洲会総合病院の渋谷さんが先代に声をかけてくださったことがきっかけで、リンクナースとして学びを求めて参加しました。渋谷さんの人脈や気さくで温かい人柄に支えられ、難しい課題もクリアさせてくれる前向きな雰囲気があります。このネットワークは、保健所も加わって毎月顔を合わせ、**各施設の課題や悩みを共有できる「寺子屋」のような場**です。相談や意見交換を通じて、しんどいときには支え合える関係が築かれています。施設の種類は異なっても地域で協力し合える点が魅力で、医療だけでなく保育など多様な分野に広がり、**共通する経験を持つ施設同士で学び合える**ことがKICNの大きな価値だと感じています。

末永様　参加のきっかけは、渋谷さんが保育施設向けの講習会で話しているのを聞いて、「次から参加してみよう」と思ったことでした。八尾しょうとく園には知的障がいのある2～6歳の子どもが約65名通っていて、私は月1回、来られるときに参加する形で10年以上関わっています。園内の感染症情報をメールで共有しつつ、他の保育所や介護施設の流行状況も分かるのでありがたいです。また、園の管理職が参加を理解してくれているのも続けられている理由です。認定看護師の方に施設の悩みを相談できるのも大きく、**自分に必要な情報を持ち帰るつもりで参加**しています。

八尾市保健所　野上様　八尾徳洲会総合病院とは保健所として日頃から相談していましたが、私が異動したのはコロナ禍で、他施設と直接会う機会がほとんどありませんでした。会議に参加してみると、対面で話すことで意見を伝えやすいと実感しました。また、保健所だけでは声をかけにくい場を渋谷さんがつないでくださり、行政としての意見も伝えやすくなりました。現場で何が起きているのか、どんな点に困っているのかを直接聞けるのはとても貴重です。**保健所からの感染対策の助言等が現場の実情とずれることもあるので、互いの「難しさ」や「思い」を共有できる**この場は大切だと感じています。

八尾市保健所　保健予防課　保健師　野上恵子様（左）
八尾市保健所　保健予防課　保健師　山﨑愛華様（右）

天辰様　八尾徳洲会総合病院と八尾市保健所、さらに東大阪の保健所とも顔を合わせて連携できる関係があり、こうした対面の機会は非常に重要だと感じています。コロナ禍では届け出や状況確認で双方が忙しく、緊張感のある中で手探りの対応が続きましたが、八尾のネットワークの存在を知っていたことで、その経験を活かし、保健所と直接意見交換できる関係性が築かれてきました。今では率直に話し合える場として機能しており、**連携の大切さを改めて**実感しています。

医療法人徳洲会　八尾徳洲会総合病院
感染制御部　部長　渋谷豊克様
経営学修士　認定看護管理者　感染管理認定看護師